結の故郷 越前おおの　　報道資料

【発信日】令和８年７月１５日
【問合わせ先】
大野市役所（１階７番窓口）
地域経済部観光交流課 山村、嶋田
電話 0779-66-1111 内線 1803

恐竜化石発見 30 周年記念企画展
「九頭竜の恐竜たち」を開催します！

大野市では、九頭竜地域での恐竜化石発見 30 周年を記念し、企画展「九頭竜の恐竜たち」を開催します。

本企画展では、九頭竜地域で発見された貴重な化石を一堂に展示するとともに、発見から 30 年にわたる調査・研究によって明らかになった最新の研究成果を紹介します。さらに、これまで一般公開されていなかった化石資料の一部を初公開し、九頭竜の地に息づいていた太古の生き物たちの姿や地域に眠る地球の歴史に迫ります。

期間中は、研究者によるギャラリートークや特別展示、フォーラムなどの関連イベントも開催し、子どもから大人まで楽しみながら学べる内容となっています。

恐竜王国・福井を支える九頭竜地域の貴重な研究成果を広く発信する機会として、多くの皆さまにご覧いただきたいと考えています。30 周年の節目にあわせた特別な企画展となっておりますので、報道機関の皆さまにおかれましては、事前紹介や会期中の取材・報道についてご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

１　企画展概要

○名称　　恐竜化石発見 30 周年記念企画展「九頭竜の恐竜たち」

○展示資料

・鳥盤類恐竜の大腿骨化石（手取層群伊月層、大野市下山）【初公開】
・獣脚類恐竜パロニコドン様の歯化石（手取層群伊月層、大野市下山）【初公開】
・鳥脚類恐竜の歯化石（手取層群伊月層、大野市下打波）
・その他、手取層群伊月層産の脊椎動物、貝類、植物などの化石

○開催期間　令和８年７月 18 日（土）～11 月８日（日）

○開館時間　9:00～16:00（日曜・祝日は 17:00 まで）

○休館日　　月曜日（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日

○会場　　くずりゅう化石ラボ ガ・オーノ

2　関連イベント

①　九頭竜化石フォーラム 2026「化石から探る大野の恐竜時代」

大野市で発見された恐竜や化石に関する最新研究を紹介します。

○日時　令和 8 年 8 月 22 日（土）13:00～15:30

○会場　和泉ふれあい会館 コンサートホール（福井県大野市朝日 26-30-1）

○参加費：無料

○申込み：不要

○講師

・柴田 正輝 氏（福井県立大学恐竜学部 教授）

・安藤 寿男 氏（福井県立大学恐竜学部 教授）

・築地 祐太 氏（福井県立恐竜博物館 研究員）

・酒井 佑輔 氏（大野市教育委員会 主任学芸員）

・坂本 拓海 氏（大野市 観光交流課 化石研究補助員）

・關 明日香 氏（大野市 観光交流課 化石研究補助員）

②ギャラリートーク

研究者が展示の見どころをわかりやすく解説します。

○参加費：無料

○申込み：不要

○講師

・酒井 佑輔 氏（大野市教育委員会　主任学芸員）

・坂本 拓海 氏（大野市 観光交流課 化石研究補助員）

・關 明日香 氏（大野市 観光交流課 化石研究補助員）

○開催日　令和 8 年 7 月 18 日（土）、7 月 28 日（火）、8 月 8 日（土）、8 月 23 日（日）、
9 月 19 日（土）、10 月 11 日（日）、11 月 7 日（土）

○時間　11:00～12:00

○会場　くずりゅう化石ラボ ガ・オーノ

③特別展示「日本の竜脚類研究」

福井県立恐竜博物館の特別展開催にあわせ、日本の竜脚類研究に関する資料を展示します。

○期間　令和 8 年 8 月 1 日（土）～11 月 1 日（日）

○展示内容

・竜脚類が食べていたかもしれない「ブラキフィルム」とはどんな植物？

・化石発掘体験で竜脚類化石を見つけよう！

○会場　くずりゅう化石ラボ ガ・オーノ



恐竜化石発見30周年記念企画展

九頭竜の地で発見された貴重な化石の数々ー
発見から30年を記念し、最新の研究成果とともに
その魅力に迫ります！

九頭竜の恐竜たち

2026.7/18(土)~11/8(日)

【開館時間】
9:00～16:00
日曜・祝日は17:00まで

会場：**くずりゅう化石ラボ ガ・オーノ**
TEL.0779-78-2845 福井県大野市朝日25-7

【休館日】月曜日（祝日の場合はその翌日）、祝日の翌日
【入館料】大人：400円（30名以上の団体は200円）、中学生以下：無料

関連イベント

1. 九頭竜化石フォーラム 2026「化石から探る大野の恐竜時代」

大野市で発見された恐竜や化石の最新研究を紹介！

日時：**2026年8月22日（土）13:00～15:30**　会場：**和泉ふれあい会館 コンサートホール**（福井県大野市朝日26-30-1）

2. ギャラリートーク　研究者が見どころをわかりやすく解説！（申込不要・参加無料）

開催日：**7/18（土）、7/28（火）、8/8（土）、8/23（日）、9/19（土）、10/11（日）、11/7（土）**
時　間：**11:00～12:00**　会場：**くずりゅう化石ラボ ガ・オーノ**

3.特別展示「日本の竜脚類研究」

福井県立恐竜博物館の特別展開催にあわせ、日本の竜脚類研究に関する資料を展示。

期間：**2026年8月1日（土）～11月1日（日）**　会場：**くずりゅう化石ラボ ガ・オーノ**

恐竜のふるさと・九頭竜で、太古のロマンを体感しよう！

問い合わせ
大野市 教育委員会事務局生涯学習・文化財保護課　福井県大野市城町9-1　TEL.0779-65-5590
大野市 地域経済部 観光交流課　福井県大野市天神町1-1　TEL.0779-64-4817

大野市の新たな恐竜化石① 小型鳥盤類恐竜の大腿骨

令和 6（2024）年 6 月、愛知県江南市在住の合田隆久氏（瑞浪市化石博物館友の会 会長）により、大野市下山に分布する手取層群伊月層（約 1 億 2880 万年前：白亜紀前期）から本市では初となる恐竜の骨化石（以下、下山骨標本）が発見されました。下山骨標本は、その後の北九州市立自然史・歴史博物館の大橋智之博士による調査研究により、小型鳥盤類恐竜の大腿骨だと判断され、令和 7（2025）年 12 月 6 日に日本古生物学会第 175 回例会で発表されました。

(1) 標本の意義

①大野市の手取層群から初の小型鳥盤類恐竜の体骨格化石の報告であること。
②手取層群から報告されている種と比べると、これまでと異なる形態の大腿骨であること。
③年齢査定ができていないが、サイズや形態からは幼体～亜成体の可能性もあること。
→②と③から、手取層群から報告されている恐竜と異なる種の可能性もしくは報告されている種の幼体～亜成体の可能性の 2 つが示唆されます。

(2) 標本の概要

下山骨標本は、保存部位が約 5.5 ㎝の大腿骨で、股関節側が保存されており、骨盤と関節する骨頭という部位や、骨盤と繋がる筋肉の付着部位の小転子（前側）や大転子（後ろ側）を確認することができます。膝関節側は保存されていません。

軸の後ろ側にある、尻尾への筋肉が付着する第四転子は基部のみ保存されています。骨頭と第四転子の位置関係などから左の大腿骨であることがわかります。

全体に内外側方向に少し潰れているように観察されるが、元々が内外側方向に扁平な形状をしていたことも推定できます。前後方向から見て軸はほぼ真っ直ぐであるが、内外側方向から見ると軸は前方に弧状に湾曲していることがわかります。

(3) 標本の主な特徴

・保存部位が約 5.5 ㎝の大腿骨化石である。
・骨頭は軸に対して 100 度以上の角度で開いている。
・ 骨頭の形状は丸みのある豆型をしており、軸と繋がる部分（首の部分）よりも骨頭は全体的に膨らんでいる。
・ 大転子部分は近位端（背側）が欠損しているが、全体的に弧状に広がる。
・ 大転子が骨頭よりも後方に位置する。
・ 小転子も近位端（背側）が欠損しているが、緩く盛り上がった断面の形状が観察できる。
・ 小転子は大転子と大きな切れ込みで区分されており、前後幅は大転子よりも小さい。

・ 第四転子は軸の近位（股関節側）に位置している。

(4) 標本の分類と比較

下山骨標本は、軸の前方への湾曲や第四転子基部が広いことなどから、鳥盤類恐竜の大腿骨である可能性が高いと言えます。鳥盤類恐竜は恐竜を 2 つに分類した際の一方のグループで（もう一方が竜盤類）、植物食であり、角竜類・堅頭竜類・鳥脚類・鎧竜類・剣竜類などが含まれています。白亜紀前期の東アジアからも様々な種の報告があり、手取層群からもアルバロフォサウルス（石川県白山市）、コシサウルス（福井県勝山市）、フクイサウルス（福井県勝山市）が知られています。

鳥盤類恐竜の系統関係を網羅的に扱った研究の中で、下山骨標本と同じ形態的特徴・産出時代（白亜紀前期）・場所（東アジア）などを踏まえて比較すると、小型鳥盤類の他、鳥脚類と角竜類が比較対象として該当します。その中でも中国から報告されているジェホロサウルスとは、本標本で確認できる形態的特徴の半分程度が一致しています（＊注：下山骨標本で確認できる形態的特徴がジェホロサウルスよりも一致している恐竜もいるが、時代・場所などが同様ではない）。論文で報告されているジェホロサウルスと比較すると、本標本のサイズが小さいこと、軸の前方への湾曲が強いこと、骨頭の形状が異なることなどの相違があります。また、ジェホロサウルスは小型個体の軸の湾曲が強いことが言及されています。

韓国の白亜紀前期～後期から産出しているドゥリサウルスは、2 歳程度の成長段階で化石になったことが報告されていますが、下山骨標本はドゥリサウルスの大腿骨よりもサイズが小さいです。このドゥリサウルスの大腿骨サイズや、小型鳥盤類では軸の湾曲が成長段階初期で強いことを踏まえるのであれば、下山骨標本は幼体～亜成体のものである可能性もあります。保存部位のサイズを一般的な小型鳥盤類のサイズと比較すると、下山骨標本は全長約１ｍ程度と思われます。

手取層群から報告されている鳥盤類恐竜と比較すると、コシサウルス、フクイサウルスとは体サイズ自体が大きく異なります。アルバロフォサウルスは頭骨の一部しか見つかっていないため、直接的な比較ができません。同時代の東アジアからの鳥盤類と比較してもジェホロサウルス、ドゥリサウルスなどとサイズが異なることや形態も相違が認められることから、現時点で下山骨標本の詳細な分類は鳥盤類であることに留まります。

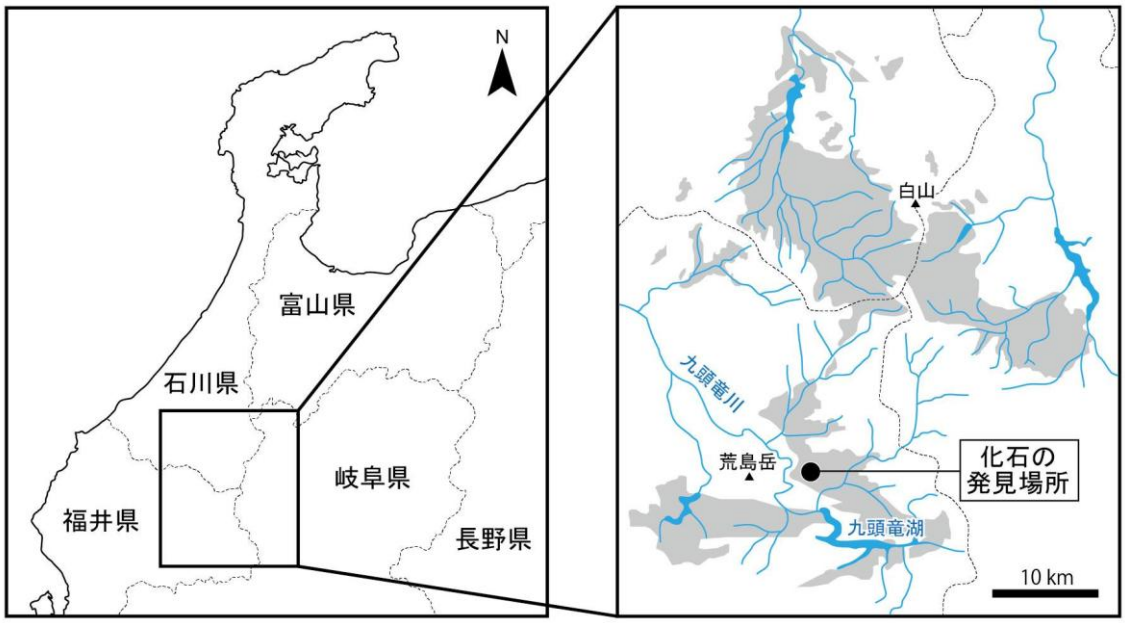
(5) 問い合わせ先

［研究の経緯に関すること］
大野市教育委員会事務局 生涯学習・文化財保護課　主任学芸員　酒井佑輔
福井県大野市城町９－１
電話：０７７９－６５－５５９０　　ファクス：０７７９－６６－２８８５
メール：shobun@city.fukui-ono.lg.jp（代表）

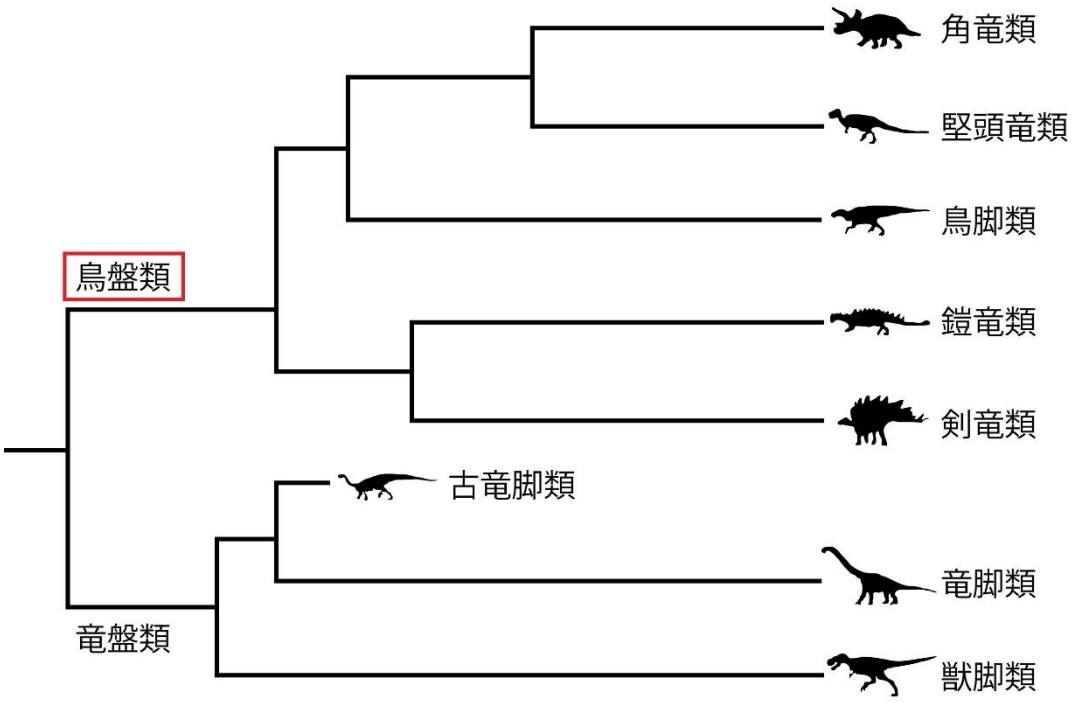
［研究成果に関すること］
北九州市立自然史・歴史博物館 自然史課　学芸員　大橋智之
福岡県北九州市八幡東区東田２－４－１
電話：０９３－６８１－１０１１　　ファクス：０９３－６６１－７５０３
メール：ohashi@kmnh.jp（大橋）



大野市下山産の鳥盤類恐竜の大腿骨化石（画像提供：大橋智之）



大野市下山産の鳥盤類恐竜の大腿骨化石の発見場所。右の地図中のグレーは手取層群の分布を示す。



恐竜類の系統関係。鳥盤類恐竜には、角竜類・堅頭竜類・鳥脚類・鎧竜類・剣竜類などが含まれる。

大野市の新たな恐竜化石② 獣脚類恐竜パロニコドン様と呼ばれる歯

平成 23（2011）年 4 月、岐阜県瑞浪市在住の楓 達也氏（瑞浪市化石博物館ボランティアスタッフ）により、大野市下山に分布する手取層群伊月層（約 1 億 2880 万年前：白亜紀前期）から小型獣脚類の遊離歯化石（以下、下山歯標本）が発見されました。下山歯標本は、平成 29（2017）年 1 月 28 日に日本古生物学会第 166 回例会で簡易的に「パロニコドン様」と呼ばれる歯であることが報告されていましたが、その後の大阪大学ミュージアム・リンクスの上田裕尋博士による調査研究により、詳細な記載と分類学的検討が進められました。

(1) 標本の意義

下山歯標本は、世界的にも正体がよくわかっていない「パロニコドン様」と呼ばれる歯で、当時の日本に複数の獣脚類が共存していたことを示す重要な手がかりであるとともに、謎の獣脚類パロニコドンの正体に迫る化石が日本国内に眠っているかもしれないことを示唆しています。

(2) 標本の概要

歯冠高が 3.95 ㎜ しかない非常に小さな歯ですが、膨らむ唇側面に対して舌側面が平らである、舌側面に長軸に平行なリッジが走るといった特徴的な形質が見られます。本標本はＣＴスキャンや分岐分析、機械学習を用いた詳しい分類学的検討が実施され、世界中から見つかっている獣脚類の歯の形態と比較が行われました。

(3) 標本の主な特徴

・歯冠高 3.95 ㎜、歯冠底長 1.70 ㎜と非常に小さい獣脚類の遊離歯化石である。
・歯冠のちょうど中央で 2 つに破断していますが、歯冠全体が保存されている。
・歯根はほとんど残されておらず、顎から抜け落ちた脱落歯である可能性がある。
・唇側面は膨らみますが、舌側面は平らなため、断面は半円状を呈する。舌側面には中央に長軸に平行なリッジが見られ、その近心、遠心側に皺状の構造が発達する。唇側面にはこの様な構造は観察されず、滑らかな表面をしている。
・近心縁と遠心縁にはカリナが発達しますが、近心カリナは歯冠頂から歯冠の 3 分の 1 程度までで終わる。両カリナには鋸歯は全く見られない。
・歯冠頂に、先端が丸まるように削れた咬耗が見られ、歯の間に挟まるように噛み合って削れた様である。

(4) 標本の分類と比較

下山歯標本に見られる「一方の面が平面で半円状の断面を持つ」、「側面に長軸に平行な

リッジが発達する」、「近心、遠心どちらにも鋸歯が見られない」といった形質は、北米の白亜紀後期から知られる「パロニコドン」の特徴と一致します。この様な遊離歯は世界中から知られており、パロニコドン様歯として報告がなされてきました。

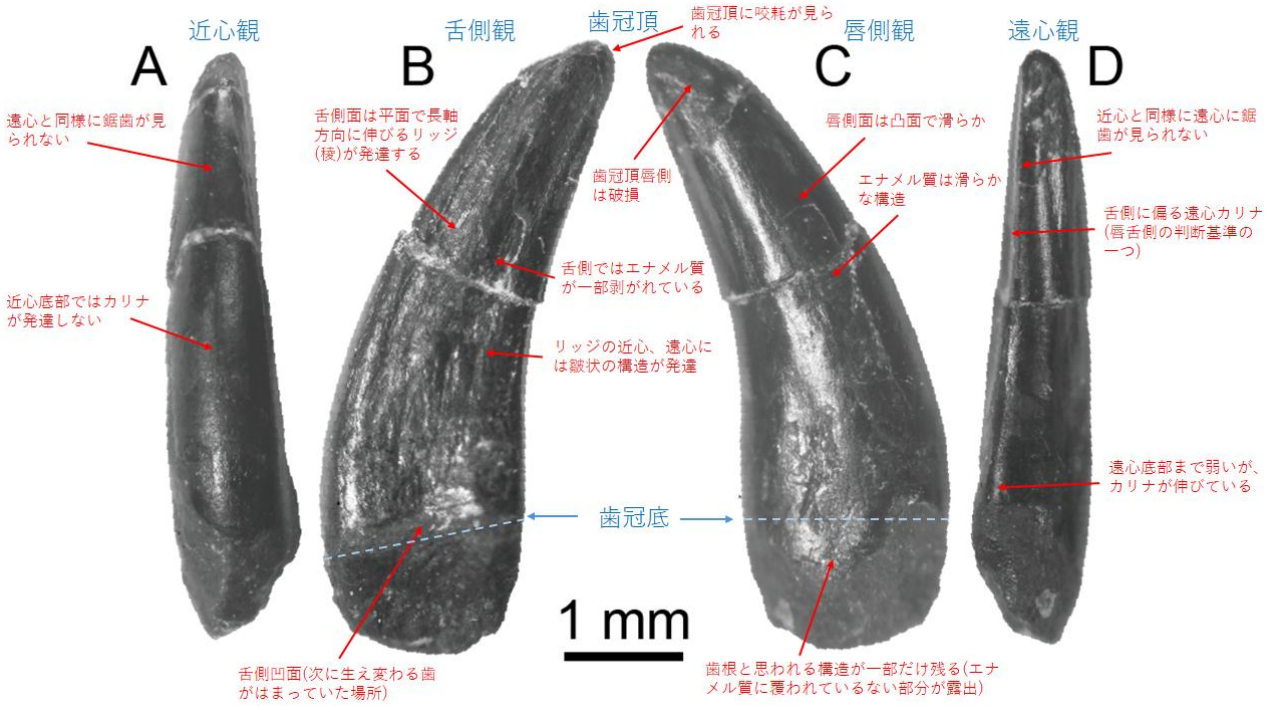
パロニコドンは、世界中で報告があるものの、歯以外の骨格部位が未発見なため、その分類は現在も不明です。ドロマエオサウルス類やティラノサウルス上科類、トロオドン類などの解釈が挙げられてきましたが、小型獣脚類以上の分類学的位置は今でもわかっていません。令和 2（2020）年にパロニコドンの同物異名にされたこともある獣脚類ザプサリスがドロマエオサウルス類のサウロルニトレステスの第 2 前上顎骨歯であることが指摘されました。これを契機にパロニコドンもまた、ドロマエオサウルス類の様な小型獣脚類の前上顎骨歯である可能性がより高まりましたが、今なおパロニコドン様の上顎骨歯を持つ小型獣脚類の化石は未報告です。

本研究で実施した、形態計測値を用いた機械学習、および分岐分析を用いた分類検討の結果、下山歯標本が顎前方の歯ならばマニラプトラ型類に含まれる可能性が高いことが示されました。これは、従来のパロニコドン様歯の仮説の一部と矛盾せず、令和 2（2020）年のサウロルニトレステスの研究から推察されるパロニコドンの正体を支持する結果となります。下山歯標本は獣脚類以上の詳しい分類学的所属は残念ながら不明ではありますが、同じ場所から発見された他の獣脚類歯化石と比較した結果、伊月層が堆積した白亜紀前期の福井には複数の獣脚類が共存していたことを示しています。また、パロニコドン様歯を持つ謎めいた獣脚類の正体を掴む鍵である歯以外の骨要素が伊月層に眠っている可能性を示してもおり、今後のさらなる発掘・発見が期待されます。

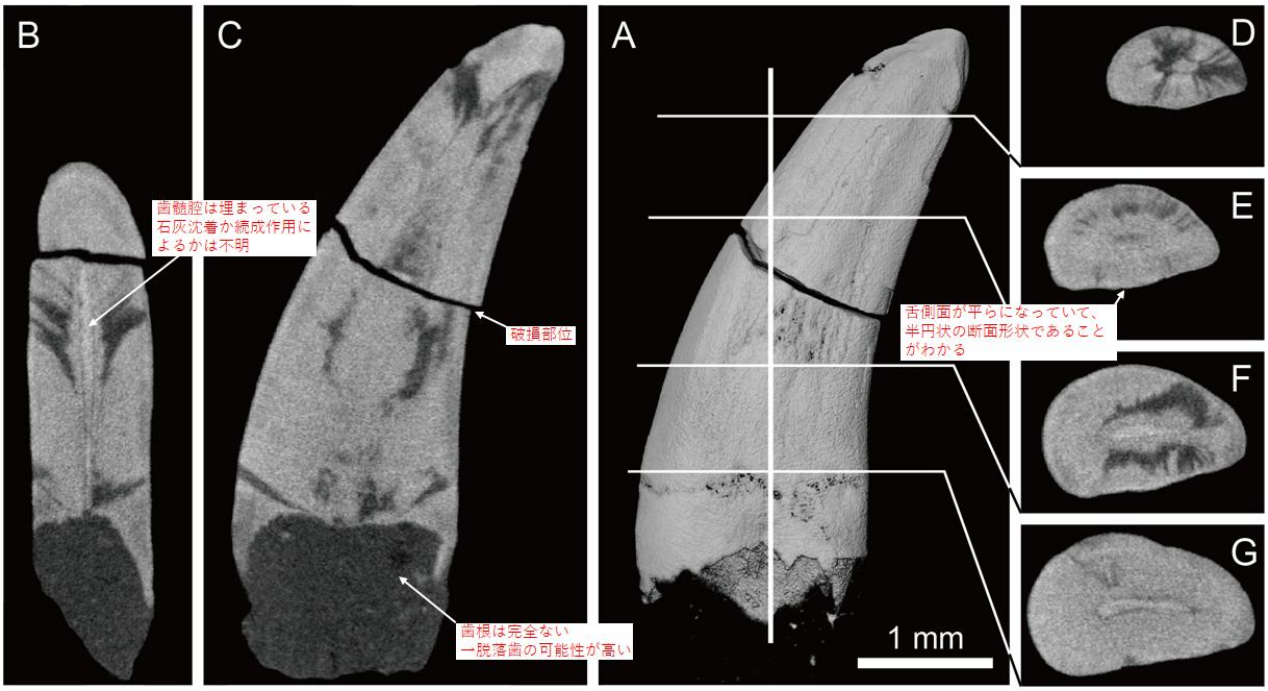
(5) 問い合わせ先

［研究の経緯に関すること］
大野市教育委員会事務局 生涯学習・文化財保護課　主任学芸員　酒井佑輔
福井県大野市城町９－１
電話：０７７９－６５－５５９０　　ファクス：０７７９－６６－２８８５
メール：shobun@city.fukui-ono.lg.jp（代表）

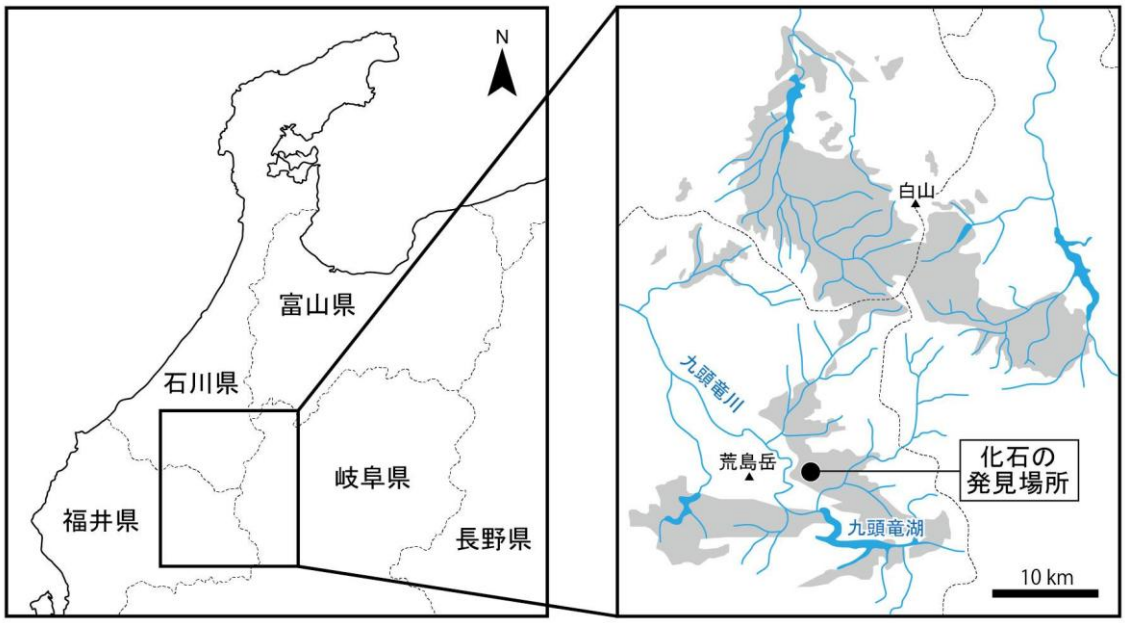
［研究成果に関すること］
大阪大学ミュージアム・リンクス　講師　上田裕尋
大阪府豊中市待兼山町１－１３
電話：０６－６８５０－５９８２
メール：hiro.ueda.museum@osaka-u.ac.jp（上田）



大野市下山産の獣脚類恐竜パロニコドン様歯化石（画像提供：上田裕尋）



ＣＴスキャンによる断面画像（画像提供：上田裕尋）



大野市下山産の獣脚類恐竜パロニコドン様歯化石の発見場所。右の地図中のグレーは手取層群の分布を示す。

三重県鳥羽市の鳥羽竜発掘現場で初めて発見された球果類化石

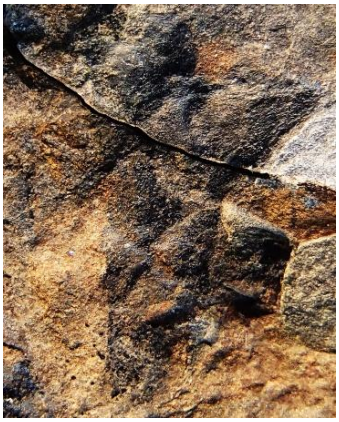
三重県鳥羽市砥浜海岸には、約１億 3800 万年前（白亜紀前期）に河口域からやや沖合の浅海域で堆積した松尾層が分布しています。砥浜海岸は、平成８（1996）年に竜脚類「鳥羽竜」が発掘された場所として有名であり、現在もその発掘現場が海岸沿いに残されています。

鳥羽竜が発見されてから 30 年を迎える令和 8（2026）年、大野市教育委員会の酒井佑輔主任学芸員、日本大学文理学部地球科学科の梨和駿雄氏・長田充弘助手の共同研究において、鳥羽竜発掘現場の松尾層を調査した際、本層では初となる球果類（針葉樹類）の化石を発見しました。この化石がブラキフィルム属の一種であることが、令和８（2026）年６月 27 日に日本古生物学会 2026 年年会で発表されました。

ブラキフィルム属は、短く幅広の鱗状の小さな葉が枝を螺旋状に覆うのが大きな特徴です。ヒノキの枝に似た見た目をしていますが、三畳紀後期に出現し白亜紀末の約 6600 万年前に絶滅した植物です。主に熱帯の乾燥地帯で繁栄したので、乾燥を伴う気候を好んでいたとされています。

竜脚類は、周囲にある植物を大量に食べ、球果類を主要な食料としていました。鳥羽竜発掘現場においてブラキフィルム属が発見されたことから、鳥羽竜は首を伸ばしてブラキフィルム属を食べていた可能性が高いと考えられます。

［問い合わせ先］
大野市教育委員会事務局 生涯学習・文化財保護課　主任学芸員　酒井佑輔
福井県大野市城町９－１
電話：０７７９－６５－５５９０　　ファクス：０７７９－６６－２８８５
メール：shobun@city.fukui-ono.lg.jp（代表）



鳥羽竜発掘現場で発見された球果類ブラキフィルム属の化石